

平成18年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 並 やや多 やや少 並	並 並 やや多 やや少 並
レタス	灰色かび病 菌核病	並 やや多	並 やや多
たまねぎ	ネギアザミウマ	多	多
いちご	炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	多 少 並 少 やや多	多 少 並 少 やや多
かんきつ	ミカンハダニ アカマルカイガラムシ	やや少 やや少	やや少 やや少

【発生予報】 本文の( )内は平年値

**トマト**

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(前年は発病株率0.0%、発生圃場率8.3%、H16年は発病株率0.0%、発生圃場率16.7%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.3%)。

3. コナジラミ類(外コナジラミ類、オシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.2%(0.6%)、発生圃場率は33.3%(13.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。  
イ タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病を媒介するので黄色粘着板等で発生状況を把握し防除に努める。

## きゅうり

### 1. ペと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.0%(2.9%)、発生圃場率は33.3%(35.6%)であった。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.9%(2.4%)、発生圃場率は41.7%(38.6%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.1%(0.7%)、発生圃場率は25.0%(14.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難なので、早期防除に努める。

イ 薬剤は葉裏までかかるように十分散布する。

ウ 薬剤防除の際は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

### 4. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.8%)。

### 5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.9%、発生圃場率10.7%)。

### 6. コナジラミ類(外コナジラミ類、オシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.9%)、発生圃場率は33.3%(16.9%)であった。

## レタス

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.8%)。

## 2. 菌核病

- (1) 予報内容  
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は46.7%(21.2%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
株が大きくなってくると葉が繁茂して地際に薬剤がかかりにくいので、下葉の基部にも薬剤がかかるように注意して散布する。

## たまねぎ

### 1. ネギアザミウマ

- (1) 予報内容  
発生程度 多
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は22.5%(8.2%)、発生圃場率は66.7%(38.5%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は丁寧に散布する。

## いちご

### 1. 炭疽病

- (1) 予報内容  
発生程度 多
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は18.5%(1.4%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
発病および枯死した株は感染源となるので速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容  
発生程度 少
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率1.0%、発病果率0.2%、発生圃場率12.5%)。

### 3. 灰色かび病

- (1) 予報内容  
発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.7%(5.1%)であった。

### 4. アブラムシ類

- (1) 予報内容  
発生程度 少
- (2) 予報の根拠  
12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.1%(2.5%)、発生圃場率は7.4%(18.0%)であった。

### 5. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

- (1) 予報内容  
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 12月上旬の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は4.7%（3.4%）、発生圃場率は25.9%（20.6%）であった。
- イ 病害虫防除員、農業改良普及センターの情報によると平年より発生が多い。

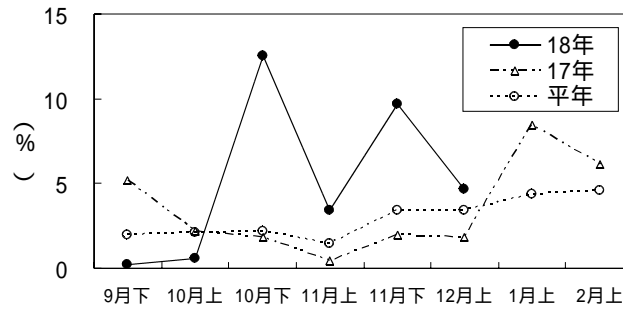


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生を認めたら初期のうちに徹底した防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月下旬の巡回調査（39筆）の結果、寄生葉率は3.6%（9.8%）、発生圃場率は33.3%（55.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

冬季にマシン油乳剤を散布すると防除効果が高いが、樹勢低下園では落葉を助長することがあるので散布を控える。

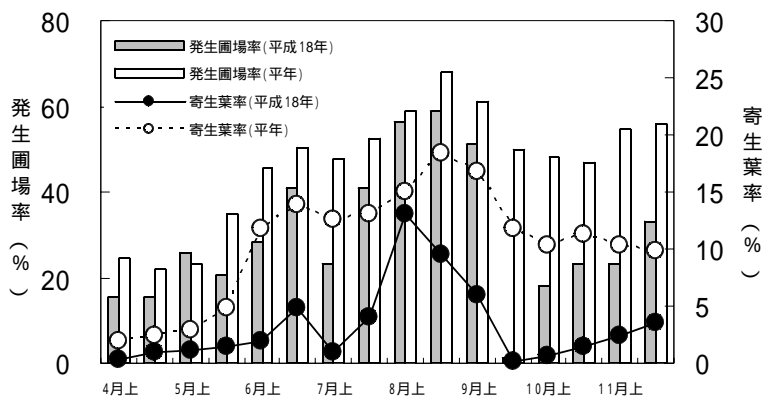


図 巡回調査におけるミカンハダニの発生状況

2. アカマルカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月に実施した「温州みかん果実の病害虫発生状況調査」の結果、早生温州における寄生果率は1.1%（前年3.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

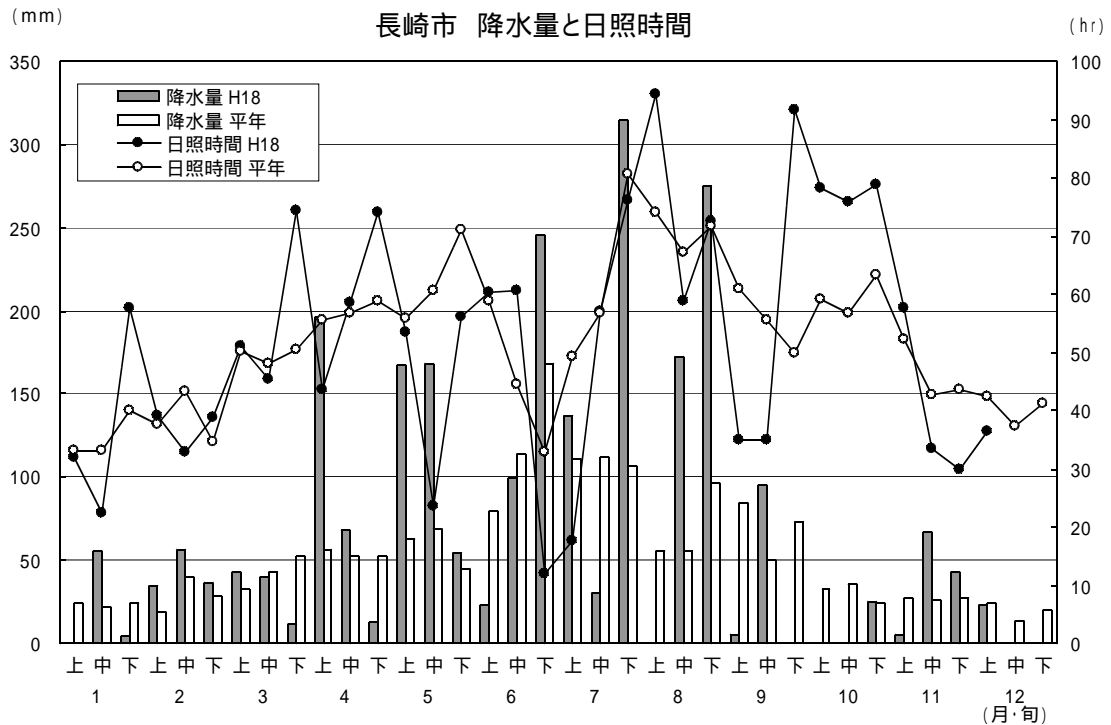
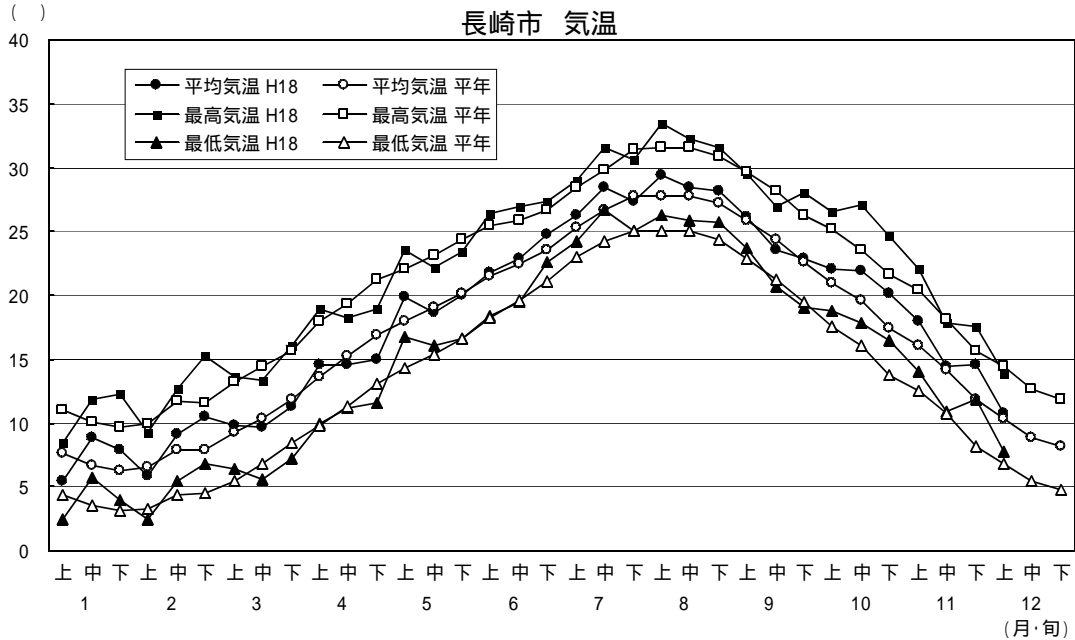
冬季にマシン油乳剤を散布すると防除効果が高いが、樹勢低下園では落葉を助長することがあるので散布を控える。

【参考】

気象（平成18年12月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台）

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

---

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制  
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp